

## 看護師の品格を育成するために

## How to Improve the Dignity of Nurses

小林 洋子 Yoko Kobayashi (日本赤十字幹部看護師研修センター)

キーワード：看護師、看護専門職、品格、看護教育、看護管理

key words : nurses, dignity, nursing profession, humanity, nursing education, nursing management

今回のシンポジウムは、看護師の品格がテーマである。品格とは、どのようなことなのだろうか。文献を探索してみると、意味するところは広く、またその要素は多様である。たとえば、その人がかもし出す美意識、道徳心（押谷，2008）、あるいは科学者としての義務、倫理性（久道，2008）、人道の心を根底にした科学の心、それを支えるコスモポリタン精神、開拓者精神（板東，2008）などと述べられている。これらのことから考えると、まず広く社会に生きる人としてのあり方、そして特定の職業にある人として、その役割を自覚し、誇りをもって誠実に職務を遂行することを意味するととらえられる。

では、看護師の品格とはどのようなことなのだろうか。今日、医療の高度・複雑化が進み、医療専門職者は、知識・技術の高度化のみならず専門性の深化と役割拡大を求められている（小松，2010）。このような医療専門職である看護師をとりまく状況は、高い専門性ととともに人として、そして役割遂行において看護師としてのあり方を問いかけている。

そこで今回のシンポジウムでは、さまざまな看護の状況に焦点を当て、看護師の品格とはどのようなことなのか、を考える。また、「『品格』は1人では育たないのである。必ず『場』が必要である。」（久道，2008）と述べられるように育てなければならない。このことは、看護基礎教育、看護実践、看護継続教育の場において、看護に携わる人々すべてにとって求められることであろう。このようなことから、今回は看護師の品格とは何か、看護師の品格を育成するために看護に従事する個々がそれぞれの立場でどうあったらよ

いか、について問題提起することをねらいとした。

シンポジウムでは、まず看護基礎教育の立場からクロズ幸子氏、看護管理者の立場から児玉真理子氏、そして在宅看護の立場から村松静子氏にご発言いただいた。クロズ幸子氏は看護基礎教育において、品格すなわちヒューマニティーや感性を育むためにリベラルエデュケーションが必要であることを提言された。児玉真理子氏は病院における看護継続教育として実践の場において看護師の看護観を育み、看護師の専門性と自律性を支援し、赤十字の看護師として人道を具現化できる人材を育成する取り組みを紹介された。つぎに、村松静子氏は、在宅看護における看護師個々に求められる品格について在宅看護の具体的な場面を通して施設内の看護とは異なった視点から看護師の品格を述べられた。続いて会場からの発言、討議の後、看護師の品格とは何か、看護師の品格を育むためには、について参加者それぞれの立場、そして実践の場で考え、深めていくことで結びとした。

文献：

- 板東昌子（2008）. 科学者としての品格とキャリアの拡大. 物性研究, 90 (2・3), 528-534.  
 久道 茂（2008）. 講演 医学・医療の品格, 日本医師会雑誌, 137 (4), 58-62.  
 小松浩子（2010）. 巻頭言 看護師の役割拡大, そのベクトル, 日本看護科学学会誌, 30 (3), 1.  
 押谷由夫（2008）. 坂東真理子著『親の品格』, 學苑, 816, 52-53.